

（毎月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日十回發行）

縣報 第八百三拾九號

明治四十二年一月十二日

和歌山縣

○公文

○和歌山縣令第二號

電氣鐵道取締規則左ノ通相定ム
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年一月十日

和歌山縣知事 伊澤多喜男

電氣鐵道取締規則

第一章 總則

第一條 本則ハ軌道條例ニ依リ主務官廳ノ特許ヲ得テ一般運輸營業ニ供スル電氣鐵道ニ適用ス

第二章 營業者ニ對スル規定

第二條 電車及之ニ附屬スル器械器具ハ當廳ノ檢査ニ合格シ檢査證書ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第三條 電車及之ニ附屬スル器械器具ハ常ニ清潔堅牢ニ保持シ破損ヲ生シタルトキハ速ニ修繕ヲ加フヘシ但シ制動機又ハ避難器ヲ修繕シ若ハ修繕ノ爲電車又ハ附屬器械、器具ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ使用前當廳ノ檢査ヲ受クヘシ

第四條 乘客ノ定員ハ車輛毎ニ之ヲ定メ當廳ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

縣報第八百三十九號 明治四十二年一月十二日 第三種郵便物認可

第五條

電車及之ニ附屬スル器械、器具ハ毎年一回當廳ノ指定シタル日時、場所ニ於テ檢査ヲ受クヘシ但シ當廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ臨時檢査ヲ施行スルコトアルヘシ
前項ノ場合ニ於テ運轉上其ノ他危險ノ虞アリト認ムルトキハ改造、修繕又ハ使用ノ廢止ヲ命スルコトアルヘシ

第六條

檢査ヲ行フニ當リ必要アリト認ムルトキハ車体及附屬器械、器具ノ全部又ハ一部ノ分解ヲ爲サシムルコトアルヘシ

檢査ノ爲ニ要シタル費用又ハ損害ハ總テ營業者ノ負担トス

第七條

電車ニハ制動機、避難品、音響器及車掌、運轉手間ニ通スヘキ信號器ヲ裝置スヘシ
當廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ驗速器ノ裝置ヲ命スルコトアルヘシ

第八條

電車ニハ其ノ内外賭易キ場所ニ車輛ノ番號ヲ明記スヘシ

第九條

電車ノ前後ニハ晝間ハ標札ヲ掲ケ夜間ハ標燈ヲ點シテ其ノ行先地ヲ知ラシムルノ裝置ヲ爲スヘシ

第十條

客車ニハ乘客ノ滿員ヲ示ス爲其ノ前後ニ滿員札ヲ掲クルノ裝置ヲ爲スヘシ

第十一條

客車ニハ車内賭易キ場所ニ車輛檢査証、乘客ノ定員、乘車賃錢表、車掌、運轉手ノ氏名ヲ記シタル標札及本則第四章ノ規定ヲ掲クヘシ

貨車ニハ車輛檢査証ヲ掲クヘシ

第十二條

電車ニハ夜間車内及其ノ前後ニ相當ノ光力ヲ有スル電燈ヲ點シ且前照燈ヲ掲クヘシ但シ貨車ハ車内ノ點燈ヲ欠クコトヲ得

客車ニハ常燈ノ外直ニ点火シ得ヘキ豫備燈ノ裝置ヲ爲スヘシ

第十三條 客車ニハ天井ノ外廣告ヲ掲クヘカラス

第十四條 電車コハ車掌及運轉手ヲ附スヘシ但シ貨車ハ運轉手ナシテ車掌ノ職務ヲ兼テシムルコトヲ得

當廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ車掌、運轉手ノ増加ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條 車掌、運轉手其ノ他電車職員ノ資格及採用方法ヲ定メ當廳ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十六條 電線路ニハ番人ヲ配置スヘキ場所ヲ定メ當廳ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

當廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ番人ノ配置ヲ命スルコトアルヘシ

第十七條 電車ノ停留場及其ノ標示ヲ設置セムトスルトキハ其ノ位置ヲ詳記シ周圍一町以内ノ見取圖ヲ添ヘ當廳ニ届出認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

信號人ヲ配置シ又ハ信號標ヲ設置シタルトキハ其ノ場所及信號方法ヲ記載シ當廳ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

當廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ信號人又ハ信號標ノ設置ヲ命スルコトアルヘシ

第十八條 軌道及電線路ニ對シテハ常ニ係員ナシテ注意セシメ運轉上危險ナカラシムヘシ

第十九條 車掌、運轉手、轉轍手、信號人及電線路番人ノ服務規程及制服ヲ定メ當廳ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第二十條 車掌、運轉手ヲ雇入レントスルトキハ其ノ族籍、住所、氏名、生年月日ヲ記シ戶籍謄本ヲ添ヘ居住地所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ願出免許証ヲ受クヘシ但シ運轉手ニ係ルトキハ其ノ

履歷書ヲ添附スヘシ

車掌、運轉手ノ居住地他ノ管内ナルトキハ直ニ當廳ニ差出スヘシ

第二十一條 車掌、運轉手以外ノ電車職員ニハ一定ノ證票ヲ交付シ置キ解雇シタルトキハ返還セシムヘシ

證票ノ様式ハ豫メ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 車掌、運轉手本則ニ違背シ又ハ就業上不適當ト認ムルトキハ免許ヲ取消スコトアル

ヘシ此ノ場合ニ於テハ指定ノ日時内ニ免許証ヲ返納スヘシ

第二十三條 車掌、運轉手以外ノ電車職員本則ニ違背シ又ハ就業上不適當ト認ムルトキハ解雇ヲ命スルコトアルヘシ

前項ニ因リ解雇シタル者ハ當廳ノ許可ヲ受クルニアラサレハ再ヒ之ヲ採用スルコトヲ得ス

第二十四條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ當廳ニ届出ツヘシ但シ第二號ノ場合ニ在リテハ免許証

又ハ檢査証書ノ書換若ハ再下付ヲ受ケ第三號乃至第五號ノ場合ニ在リテハ免許証又ハ檢査証書ヲ返納スヘシ

一 營業者ノ住所、氏名ヲ變更シ又ハ法人ノ所在地、名稱、定款、代表者及其ノ氏名ヲ變更シ

タルトキ

二 車掌、運轉手ノ免許証又ハ車輛檢査証書ヲ亡失毀損シ若ハ其ノ証面記載ノ事項ニ異動ヲ生

シ又ハ其ノ文字不分明トナリタルトキ

三 車掌、運轉手ヲ解雇シタルトキ

四 車掌、運轉手死亡シ若ハ所在不明ト爲リタルトキ

五 電車ノ使用ヲ廢シタルトキ

第二十五條 電車運轉上危害ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ傾末ヲ具シ發生地ノ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第二十六條 警察官署ニ於テ危險豫防又ハ衛生上保護ノ爲必要アリト認ムルトキハ臨時命令ヲ發スルコトアルヘシ

第三章 車掌、運轉手等ニ對スル規定

第二十七條 車掌、運轉手、轉轍手、信號人及電線路番人ハ就業中制服ヲ着用スヘシ

第二十八條 轉轍手、信號人及電線路番人ハ監ニ受持場所ヲ離ルヘカラス

第二十九條 車掌及運轉手ハ就業中免許証ヲ其ノ他ノ電車職員ハ証票ヲ携帶シ警察官吏ノ求メアリタルトキハ之ヲ示スヘシ

第三十條 車掌及運轉手ハ車掌又ハ運轉手ニ非サル者ニ自己ノ職務ヲ委托スヘカラス

第三十一條 車掌及運轉手ハ公衆ニ對シ乗車ヲ勸誘シ又ハ車中ニ於テ飲食、喫煙又ハ雜談ヲ爲シ若ハ酩酊シテ其ノ職務ニ從事スヘカラス

第三十二條 車掌及運轉手ハ電車内ニ八種傳染病又ハ其ノ疑アル患者ヲ發見シ若ハ死者アリタルトキハ最寄停留場ニ停車シ乗客ノ散逸セサル様注意シ速ニ警察官吏ニ届出ツヘシ

第三十三條 停留場以外ニ於テハ別段ノ規定アル場合ノ外停車スルコトヲ得ス但シ郡部ニ在テハ此限ニ在ラス

第三十四條 車掌及運轉手ハ線路又ハ車輛ニ故障アルカ又ハ人若ハ牛馬諸車若ハ公衆ニ對シ危險ノ虞アリト認ムルトキハ直ニ運轉ヲ停止スヘシ警察官吏ニ於テ學手其ノ他ノ方法ニ依リ停車ノ

意ヲ示シタルトキ亦同シ

第三十五條 乗車ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 定員外ニ客ヲ乗セ又ハ定額外ノ運賃ヲ請求セサルコト
- 二 運轉手臺ニ客又ハ貨物ヲ乗載セサルコト
- 三 運轉全ク止ミタル後ニアラサレハ客ヲ乗降セシメサルコト
- 四 客ノ乗降全ク終リタル後ニアラサレハ行車信號ヲ爲ササルコト
- 五 客ノ乗降場所ハ丁寧ニ告知スルコト
- 六 老幼又ハ婦女乗降ノトキハ厚ク保護スルコト
- 七 第三十八條ニ掲グル者ヲ乗車セシメサルコト
- 八 第三十八條ヲ犯シテ乗車シ又ハ第三十九條ニ掲グル行爲ヲ爲ス者アルトキハ之ヲ制止シ尙肯セサルトキハ其ノ乗車ヲ拒絶スルコト

第三十六條 運轉手ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 制限ノ速度ヲ超過シテ行車セサルコト但シ制限内ト雖道路ノ交叉部、街角、橋梁、坂路又ハ往來雜沓ノ場所ニ於テハ音響器ヲ鳴ラシ特ニ徐行スルコト
- 二 消防器俄又ハ郵便車通行ノトキハ其ノ進行ニ障礙ヲ與ヘサル様徐行シ又ハ運轉ヲ停止スルコト軍隊、學生、生徒ノ隊伍及葬儀其ノ他ノ行列通過スルトキ亦同シ
- 三 行車ノ前方約三十間以内ニ牛馬諸車若ハ歩行者アルトキハ音響器ヲ鳴ラシ警告スルコト
- 四 同一ノ方向ニ進行スル車輛ハ各車間約三十間以上ノ距離ヲ保ツコト
- 五 軌道交叉ノ場所ヲ通過セントスルトキハ交叉部ノ約十間前ヨリ徐行シ無難信號ヲ認メタル

上進行スルコト

六 停留場又ハ離合線外ニ於テハ特ニ規定アル場合ノ外停車セサルコト

七 停車シタル場合ニ於テハ掌車ヨリ行車信號アルニアサレハ運轉ヲ初メサルコト

八 信號標又ハ信號人設置ノ場所ハ無難信號ヲ認メタル上ニアテサレハ進行セサルコト

九 運轉中ハ運轉手臺ヲ離レサルコト

十 運轉停止中運轉手臺ヲ離レムトスルトキハ制禦器ノ把手ヲ外ツシ携帯スルコト

第三十七條 信號人ハ營業者ノ定メタル信號方法ヲ遵守スヘシ

第四章 乗客ニ對スル規定

第三十八條 左ニ掲クル者ハ乗車スヘカラス

一 酩酊シタル者

二 八種傳染病、癩病其ノ他同乗者ニ厭忌ノ感ヲ起サシムヘキ疾病アル者

三 同乗者ニ不快ヲ感セシムヘキ不潔ノ容裝ヲ爲シタル者

第三十九條 乗客ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一 惡臭ヲ發散シ又ハ汚汁ヲ滲出シ其ノ他同乗者ノ迷惑トナルヘキ物件ヲ携帯セサルコト

二 犬其ノ他ノ畜類ヲ牽引セサルコト

三 火藥ヲ裝填シタル銃砲其ノ他同乗者ニ對シ危害ヲ與フルノ虞アル物件ヲ携帯セサルコト

四 客車乗降口ノ踏段ニ立止マリ又ハ滿員札ヲ掲ケタル場合ニ乗車セサルコト

五 車外ニ肢体ヲ出シ若ハ唾痰ヲ吐出シ其ノ他通行人ノ迷惑ト爲ルヘキ行為ヲ爲ササルコト

六 制禦器其ノ他電氣裝置ヲ爲シタル器械器具ニ接觸セサルコト

七 車内ニ於テ横臥又ハ放歌喧嘩シ其ノ他同乗者ノ迷惑ト爲ルヘキ行爲ヲ爲ササルコト
八 飲食又ハ喫烟ヲ爲ササルコト

第四十條 第三十五條第八號ノ規定ニ依リ乗車ヲ拒絕セラレタルトキハ即時又ハ最近ノ停留場ニ於テ降車スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ既ニ仕拂ヒタル賃錢ノ拂戻シヲ請求スルコトヲ得ス

第五章 公衆ニ對スル規定

第四十一條 軌道又ハ之ニ附屬スル裝置及軌道ニ接スル場所ニ牛馬諸車木石其ノ他ノ物件ヲ留置キ又ハ何等ノ方法ヲ問ハス電車ノ進行ヲ妨害スルノ行爲ヲ爲スヘカラス

第四十二條 電車又ハ其ノ附屬ノ裝置ニ旗、紙鳶其ノ他ノ物件ヲ觸レシメ又ハ瓦礫其ノ他ノ物件ヲ投擲スヘカラス

第四十三條 電車ノ通過スルトキハ車馬又ハ通行人ハ其ノ進行ノ妨害ト爲ラサル様軌道外適宜ノ位置ニ避讓スヘシ

第四十四條 重量又ハ容積ノ多大ナル荷車ハ軌道外ニ相當ノ餘地ヲ存スルトキハ軌道又ハ軌道ニ接近シタル場所ヲ通行スヘカラス

第四十五條 電車運轉ノ爲特ニ設ケタル軌道敷ヲ通行シ又ハ之ニ立入ルヘカラス

第六章 罰則

第四十六條 本則第二十八條第三十條第三十一條第三十四條第三十五條第三十六條第四十一條第四十二條ニ違背シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處シ第二條第三條第四條第五條第一項第七條第一項第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第一項第十五條第十六條第一項第十七條第一項全第二項第十八條第十九條第二十條第二十一條第二

十三條第二項第二十四條第二十五條第二十七條第二十九條第三十二條第三十三條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十三條第四十四條第四十五條ニ違背シタル者又ハ第五條第二項第六條第七條第二項第十四條第二項第十六條第二項第十七條第三項第二十二條第二十三條第二項第二十六條ノ命ニ從ハサル者ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

第四十七條 十四歳ニ滿タサル者又ハ禁治産者ニシテ本則ニ違背シタルトキハ前條ノ科料ヲ其ノ法定代理人ニ科ス

第四十八條 法人ノ業務ニ關シ法人ノ代表者其ノ他ノ從業者ニシテ本則ニ違背シタルトキハ第四十六條ノ科料ヲ法人ノ代表者ニ科ス

第七章 附則

第四十九條 他管内ヨリ和歌山縣下ニ聯通スル電氣鐵道營業者ニシテ其ノ管轄廳ヨリ本則第二條及第二十條ニ該當スヘキ檢査証書又ハ免許証ヲ受有スル者ハ更ニ之ヲ受クルヲ要セス

縣報第八百三十九號

明治四十二年一月十二日

第三種郵便物認可

○和歌山縣告示第七號

西牟婁郡秋津川村九百六十五番地ノ内一號
開業産婆

堀越くま

右ノ者今般死亡ノ旨ヲ以テ取消願出ニ依リ本日
和歌山縣産婆名簿ノ登録ヲ取消ス

明治四十二年一月十二日

和歌山縣知事 伊澤多喜男

○和歌山縣告示第八號

左記ノ者頭書ノ番號ヲ以テ本日和歌山縣産婆名簿ニ登録ス

明治四十二年一月十二日

和歌山縣知事 伊澤多喜男

有田郡五西月村大字尾上三百三十番地

和歌山縣平民

第六九三號

岩橋タカ

明治貳拾年四月生

○觀測

明治四十二年一月七日ヨリ三日間當地氣象概況(前年對照)

種目	前年	本年	前年	本年	前年	本年
月日	一月七日	一月八日	一月八日	一月九日	一月九日	一月九日

明治三十三年五月八日第三種郵便物認可

縣報第八百三十九號

明治四十二年一月十二日

第三種郵便物認可

一二終

平均氣壓	七六七耗四	七六一耗四	七六七耗〇	七六五耗六	七七三耗八	七六六耗九
平均氣溫	六度〇	七度五	五度四	六度二	四度五	四度三
最高氣溫	九度三	一三度七	七度六	一〇度〇	九度四	七度八
最低氣溫	三度八	三度〇	三度七	二度一	冰点下〇度四	一度六
最多風向	北々東	北西	西南西	北	北	北東
平均風力	三米〇	三米四	六米九	二米四	二米七	三米四
天氣	曇	晴	半晴	晴	晴	曇后雨
降水量	一耗二	〇耗〇	〇耗〇	〇耗〇	〇耗〇	四耗七
記事現象	曉間降雨	正午西南西ノ強風吹ク	夕刻雨又蔽	雨	曉間及夜間降雨	曉間結霜
				午前十時沿海ノ警戒ヲ解除ス		午后降雨

(毎月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日十回發行)

明治四十二年一月十一日印刷

(壹頁代價)

和歌山縣

和歌山市久保町一丁目二十四番地
印刷人 友次郎
和歌山市久保町一丁目二十四番地